

# 地図+担い手リストで「区」の地域計画」を検討

## 京田辺市



**頑張る「地区連」**  
水取区では、昨年10月29日、毎秋の恒例行事「ライスセンター清掃作業&野外パーベキュー」(ライスセンター清掃作業&野外パーベキュー)を開催した。

京田辺市 水取区  
水取区では、昨年10月29日、毎秋の恒例行事「ライスセンター清掃作業&野外パーベキュー」(ライスセンター清掃作業&野外パーベキュー)を開催した。

「地域計画」の策定に当たっては、中核的経営体に加え、多様な担い手や非農家が参画して、農村の危機を救う方法を話し合う必要がある。農地を守り、農村を守ることに繋がってこそ、真の地域計画である。地域には、福祉・医療・教育・産業など、誰がどの農地を耕作しているのかまで把握し、地域を閉鎖型から開かれた地域計画の策定を機に農業と農村のあり方を再構築する。そのために「地域農政の原点」に立ち帰り、地域での話し合いに全力をあげて「農業の顔が見える計画」に取組んでほしい。

# 現場の想い

◆農業者が減少した今、行政関係者は何をすべきなのか。仕事はデスクワークだけで良いのか。農業者の不安や意見を聞き、現実を直視すべきではないか。本質的な課題は何かを掘り、農業者のための政策を具体化するべきではないか。従来の農業者支援の枠組みを超えて、やれることを全てやり尽くす覚悟が求められる。要件のクリアが難しい事業では、農業者にとって単なる負担でしかない。多くの農業者が救われ、利益が出せるなら立

派な産業である。「農産物の国内生産」最優先に国の農政が転換すれば大きな変化が起きるだろう。農業の魅力が肌で感じられ、担い手が増え、地域では農地の取り合いが起る。そんな「遊休農地が発生しない将来像」を思い描いてみたい。◆誰がどの農地を耕作しているのかまで把握し、地域を閉鎖型から開かれた地域計画の策定を機に農業と農村のあり方を再構築する。そのために「地域農政の原点」に立ち帰り、地域での話し合いに全力をあげて「農業の顔が見える計画」に取組んでほしい。

## 農業者の顔が見える地域計画を!!

・環境などさまざまな課題がある。地域計画とは「住民自治の実践」であり、国も自治会役員などが話し合いに参画することを推奨している。◆近年、農産物価格が低迷し、農業資材は高騰して「農業の顔が見える計画」に取組んでほしい。

京都府茶業研究所では、キュウリ・トマトなどの防除に使われるカート式静電ノズルによる茶園防除の省力化を研究している。静電ノズルは、ノズルの電極に高電圧をかけて噴霧した薬液がマイナスの静電気を付加し、葉裏は、慣行の農業散布量への薬液付着効果を高め

「わさび菜」を精華町の特産に!  
私は広報・研修委員会1ナリーを交代で担当してに所属し、農業委員会だにいます。12月3月頃の一押しとして、「食卓に一品」と題した、「精華町の特産(イチオシ)」は「わさび菜」です。先月(昨年12月)に町内の生産者6人で発足した精華町わさび菜出荷組合では、農業委員会の岩井三郎会長、井上和也副会長、森島隆詞委員が中心メンバーでがんばっています。

女性委員が「つないで発信」  
私は広報・研修委員会1ナリーを交代で担当してに所属し、農業委員会だにいます。12月3月頃の一押しとして、「食卓に一品」と題した、「精華町の特産(イチオシ)」は「わさび菜」です。先月(昨年12月)に町内の生産者6人で発足した精華町わさび菜出荷組合では、農業委員会の岩井三郎会長、井上和也副会長、森島隆詞委員が中心メンバーでがんばっています。

## 夫婦で移住、駆除した鹿・猪の皮で作品を制作

京丹波町 石黒幹朗さん  
兵庫県西宮市から7年前に京丹波町升谷の古民家に移住し、夫婦で皮革のアトリエ工房を営む石黒幹朗さん。妻の由枝さんが「靴や財布など革製品のブランドLO(エールオー)」を立ち上げた後、幹朗さんも「鹿・猪の生皮から作るオブジェやアート作品のブランドun(ウウン)」を立ち上げ注目されている。畜産として駆除された鹿・猪の皮は、大半が利用されずに廃棄される「自然栽培の野菜作りで生きていく持久力をつけながら、創作でも自然の形や現象を生かした表現を昇華させたい」と語る。これからの活躍が楽し



京丹波町農業委員会

を半分減らしても「同等の防除効果」が認められた。玉露やてん茶を栽培する自然仕立ての手摘み茶園では、夏以降に人の背丈ほど伸びた枝の上で防除傘を振り回す作業が大変だったが、カート式静電ノズルならカートを押して歩くだけで防除できるため、労力を大幅に軽減できる。今後、下部のタイヤや噴口にホースが絡まないように改良して利便性を高めることで、茶農家への普及を見込んでいる。

## 女性委員が「つないで発信」

「わさび菜」を精華町の特産に!  
私は広報・研修委員会1ナリーを交代で担当してに所属し、農業委員会だにいます。12月3月頃の一押しとして、「食卓に一品」と題した、「精華町の特産(イチオシ)」は「わさび菜」です。先月(昨年12月)に町内の生産者6人で発足した精華町わさび菜出荷組合では、農業委員会の岩井三郎会長、井上和也副会長、森島隆詞委員が中心メンバーでがんばっています。

月)に町内の生産者6人で発足した精華町わさび菜出荷組合では、農業委員会の岩井三郎会長、井上和也副会長、森島隆詞委員が中心メンバーでがんばっています。

## キュウリ栽培を拡大

宇治田原町の認定新規就農者でキュウリ16アールを栽培する西村涼さん(33)。4年前、親の農業経営(茶+水稲)とは別に自身のキュウリ栽培を10アール(生産量8トン)からスタートし、来年の目標20アール(20トン)達成に向けて順調に経営規模の拡大に取り組んでいる。夏のピーク時には1日60箱を出荷し、「自分のキュウリが美味しいと力強く抱負を語った。

キュウリ収穫時の西村さん

## 静電ノズルで茶園防除を省力化

茶業研究所  
カート式静電ノズルによる手摘み茶園の防除



カート式静電ノズルによる手摘み茶園の防除

# 京都

## 京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075・441・3660

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2

府庁西別館内

075・441・3660